



朝一小だより

活気あふれ、心が躍い、みんなが幸せになる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校
 令和8年6月1日
 児童数 599名



みんなが幸せになる言葉づかいを！

校長 小林美加



新しい学年がスタートして2ヶ月が過ぎましたが、子供達は、落ち着いて学習に取り組み、様々なことに意欲的に頑張っています。新体力テストでは、1年生に6年生、2年生に5年生がサポートについて一緒に行い、高学年としての優しい姿を見て微笑ましく思いました。運動教室で教えてもらったことも生かして、友達と励まし合いながら、一人一人が自分の記録を伸ばすことができるよう一生懸命に頑張る姿も見られました。この2ヶ月の間に、1年生の給食配膳・掃除のお手伝い、朝顔のたねまき、2年生の生活科での町探検、3年生の社会科での学区探検、プール掃除等々には、多くの地域や保護者の皆様にご支援いただき心より感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、先日のお話朝会では、「みんなが幸せになる言葉づかい」について、大正末期から昭和初期に活躍した金子みすゞさんの「こだまでしょうか」という詩を紹介してお話しました。

「こだま」とは、山に登って大きな声で叫ぶと同じ言葉が返ってくる、いわゆる「やまびこ」のことですが、同じ言葉を返すのは、「こだま」だけではなく、人間も同じで、よいことも悪いことも、投げ掛けられた言葉や思いに反応するのは、万人の心だというメッセージがこの詩から読み取れます。人に親切にすれば、人から親切が返ってきます。人の悪口を言うと、必ず自分の悪口となって返ってきます。人を褒めて励ませば、自分を褒めて励ますこだまが、人を傷付ければ自分が傷つくこだまが、返ってくるといわれています。人との関わりは、良くも悪くも「こだま」していくということでしょう。

あわせて、「ふわふわ」「ポカポカ」した言葉と「チクチク」「トゲトゲ」した言葉について具体的に説明しました。特に、「うざい」「きもい」「ださい」「しね」「きえろ」等の相手を深く傷つける言葉については絶対に許してはいけないこと、友達を呼び捨てにしたり、「おまえ」または変なあだ名で呼んだりすることも、よい人間関係を築くとはいえないということを伝えました。私達大人も、子供達のよりよい成長のために、見本となる良い「こだま」をたくさん響かせていきたいと思えます。一小の子供達には「相手を思いやる温かい言葉」や「前向きな言葉」を使ってほしいと思えます。

また、朝の登校時に3つの門前を順番に立っていると、元気よく「おはようございます！」と挨拶をしてもらおうと、とても嬉しい気持ちになります。「挨拶は、魔法の言葉」といわれるように、人と人との心をつなぐことができます。自分から進んで挨拶をすることができる子供達になってほしいと思えます。

ぜひ、ご家庭でも「言葉づかい」や「挨拶」について、話をしてみてください。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



6月6日には、学校公開や引き渡し訓練もありますので、ぜひ、一小まで足をお運びいただき、子供達の頑張りや日頃取り組んだ作品等もご覧ください。皆様のお越しを心からお待ちしております。今後も、地域や保護者の皆様と学校が「チーム一小」として子供達にとって一番の応援団になることができればと思いますので、引き続きあたたかいご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。